

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近の動き

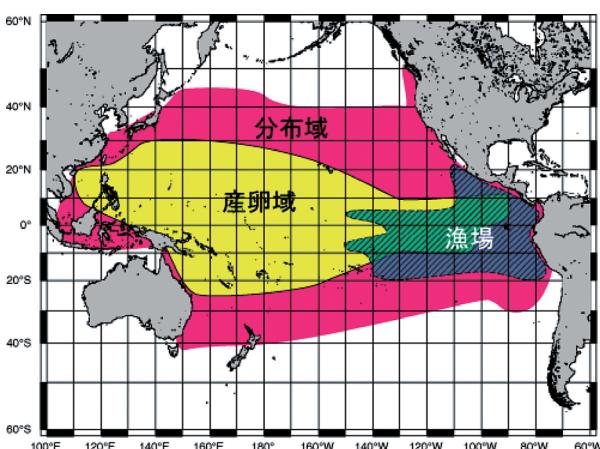
最近の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に行われた。2015 年には、前年までの各種の漁業・生物学的指標値が更新された。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 100 cm・30 kg
- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など

利用・用途

缶詰原料



漁業の特徴

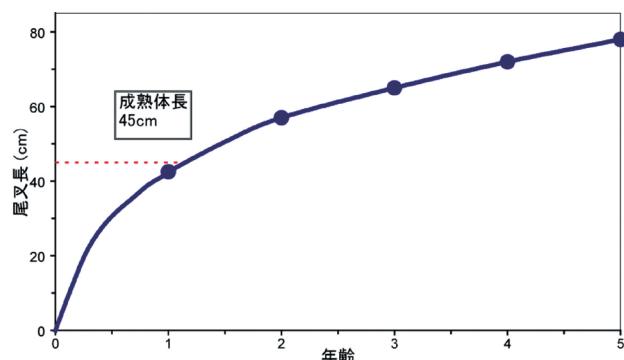
現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、ベネズエラ、コロンビア等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄による僅かな量のみである。

漁獲の動向

1950 年代までは竿釣りを主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代から漁獲量は増加傾向にある。近年の総漁獲量は 20 万～30 万トンを維持している。2014 年は 26.3 万トンであった。

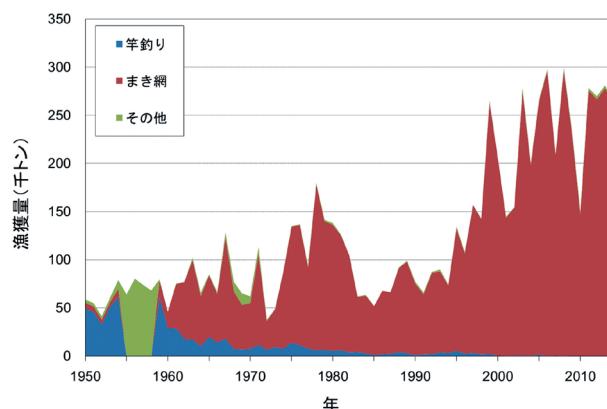
資源状態

最近の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に 4 つの指標値 (a. 漁業・生物学的指標値; b. 標識データ解析; c. サイズ組成資源評価モデル; d. 空間資源動態モデル) の解析により行われた。相対資源量は 2000 年以降増加に転じ今まで横ばいで推移している。相対加入量も同様の傾向を示し、2000 年以降横ばいで推移している。資源状態は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠は無いとされ、資源は高位、横ばいと判断された。2015 年には、前年までの各種の漁業・生物学的指標値 (まき網による漁獲量、FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE、標準化努力量、平均 (漁獲個体) 重量、相対資源量、相対加入量、相対資源利用率の 8 つ) が更新された。漁業・生物学的指標値からは資源状態を判断することは難しいが、2015 年に更新された FAD 操業 CPUE、素群れ操業 CPUE においては共に低下傾向が認められなかった。

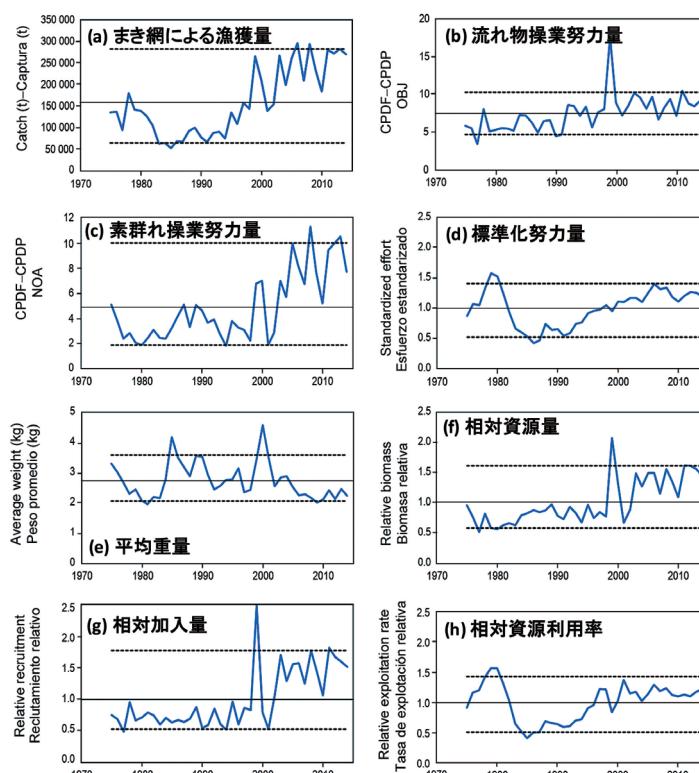


管理方策		カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源状態は高位、横ばいであり、本種を対象とする保存管理措置は IATTC において導入されておらず、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し 62 日間の全面禁漁及び沖合特定区での 1 か月間の禁漁が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。		資源水準 高 位	
資源動向 横ばい		世界の漁獲量 (最近 5 年間) 15.0 万～28.0 万トン 平均: 24.8 万トン (2010～2014 年)	
我が国の漁獲量 (最近 5 年間) 58～74 トン 平均: 65.2 トン (2010～2014 年)		最新の資源評価年 2012 年 (2015 年に指標値のみ更新)	
次回の資源評価年 未 定			

資源評価のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> 2012 年に IATTC 事務局により 4 つの指標値の解析により評価。 資源状況は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠は無い。 	



東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量（データ：IATTC 2015）



東部太平洋におけるカツオ資源指数 (IATTC 2015 を改変)

- (a) まき網による漁獲量、(b) FAD 操業努力量 (CPUE)、(c) 素群れ操業努力量 (CPUE)、
(d) 標準化努力量、(e) 平均（漁獲個体）重量 (kg)、(f) 相対資源量、(g) 相対加入量、(h)
相対資源利用率 (CPDF : Catch per days fished)